授業科目：看護のはじまりの実習★	講師名： 全教員 看護師	2 単位 90 時間 履修時期 1年生通年

単元	入院生活と看護を知る実習	講師名： 全教員	20時間	履修時期 1年生前期

【実習目的】

病院という環境において行われている「看護」と「看護の対象」について知り、「看護」とはを考える

実習目標	実習内容
1 病院という環境について知る	1 療養環境の実際 病棟・病室の構造 屋内環境の構成要素 患者を取り巻く人的環境
2 療養の場で生活している看護の対象を知る	1 療養と日常生活の変化 1日の過ごし方 生活習慣 患者の様子 2 患者との会話 入院や療養生活に対する思い
3 援助場面を見学し、看護師の役割を考える	1 援助場面の見学（可能な範囲で） ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝの測定・観察 日常生活の援助 診療や検査の介助 2 看護師の患者への関わり方 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 3 看護師への質問 看護観等

事前学習	実習オリエンテーションで説明 看護のはじまりの実習 実習要項参照
授業時間	実習時間： 8:30～15:30（1時間休憩） 8時間／日

【評価方法】
評価基準に基づき評価する（実習要項参照） 20点

単元	入院生活を支える実習 講師名： 全教員	70時間	履修時期 1年生後期

【実習目的】

入院している看護の対象を理解し、対象に応じた日常生活の援助技術を学ぶ

1 患者や家族とコミュニケーションを図ることができる	1）患者や家族を尊重した態度で接する。 2）患者や家族への適切な言葉かけをする 3）患者や家族の話に耳を傾ける 4）患者や家族に分かりやすく自分の意志を伝える
2 患者の基本的ニードの充足状況から必要な援助が理解できる	1）患者の日常生活行動を観察し、入院前の生活と入院後の生活の変化を知る （1）環境 （2）呼吸、循環、体温 （3）食事、排泄 （4）活動、休息 （5）清潔、衣生活 2）入院前後の変化からニードの充足状況を判断し必要な援助を考える （1）正常性，日常性との比較から考える （2）一般的な意義、目的から考える

3 患者に応じた日常生活の援助と診療の補助が実施できる	1）患者にあった援助方法を選択する 2）原理原則に基づいて実施する 3）プライバシーへの配慮を行う 4）患者の反応を観察しながら実施する 5）実施の結果を振り返り報告する 6）援助項目 （1）バイタルサイン測定 （2）フィジカルアセスメント （3）環境 （4）活動、休息 （5）清潔、衣生活 （6）食事、排泄 （7）診療の補助技術（見学）
事前学習	実習オリエンテーションで説明 看護のはじまりの実習　実習要項参照
授業時間	実習時間：　8:30～15:30（1時間休憩）　8時間／日
【評価方法】 評価基準に基づき評価する（実習要項参照） 入院生活を看護を知る実習20点　＋　入院生活を支える実習80点　＝100点	

授業科目：　看護を考える実習★	講師名：　全教員 看護師　2　単位　90　時間　履修時期　1年生後期

【実習目的】
看護過程の展開方法を看護実践から学ぶ。

実習目標	実習内容
1 看護アセスメントができる 1）必要な情報を収集する	1 アセスメントツールを活用し必要な情報を収集する 1）対象の反応（行動）とその反応に影響を与えている因子を意図的に情報収集する 2）主観的情報と客観的情報の二側面より収集する 2 適切な情報収集の手段を活用する
2）情報を整理・分類する	1 アセスメントツールに沿って情報収集したものを項目毎に整理、分類する 1）情報の意味するものを考えながら整理、分類する 2）情報間の繋がりを考えながら整理、分類する 3）不足情報の収集をする
3）情報の解釈・分析・統合する	1 解釈 1）収集した情報は正常か異常か（健康か不健康か）を判断する 2）今後とも注意して情報収集が必要なのかを考える 3）逸脱情報だけにとらわれず看護上の問題の解決や目標を達成するために強み（ストレングス）も判断する 2 分析・統合 1）逸脱と解釈した場合の原因を考え、その特定のために必要な情報をまとめ 論拠を明確にする 2）1）で分析した内容を元に関連している情報を統合し、看護上の問題を推定する
4）看護上の問題を抽出する	1 看護活動によって解決又は緩和できると考えられる健康上の問題を抽出する 2 問題の優先順位を決定する 1）「実在する問題」が「潜在する問題」「可能性のある問題」に優先する 2）生理的反応に関する問題が心理社会的反応に関する問題に優先するがその人にとっての優先順位を考慮する
2 看護計画を立案する	1 看護目標を設定する 1）看護の方向性と援助の方法を示すもので看護行為の根拠となる 2）対象に対する総合的な看護目標で「期待される結果」の積み重ねであり看護の方向を示す 2 解決目標を設定する 1）期待される結果。看護目標に近づくために段階的に達成できるように設定する 2）期間を設定し達成度が測定可能な患者の反応（行動）で表現する 3 具体策（解決策）を設定する 1）具体策を解決するための具体的方法、手段 2）O−P、T−P、E−Pの3要素を含む
3 計画的に看護を実践する	1 毎日の援助計画が具体的に立案できる 2 既習の看護技術を適応し計画的に援助する 3 実施した援助を対象の反応に照らして評価する
4 看護の評価・修正をする	1 実施した結果より解決目標の達成度を評価する 2 目標達成に影響したプラスの要因とマイナスの要因を整理する 3 マイナスの要因に対しては修正を加え計画を立案し実施する
5 看護チームの一員として対象・家族、保健医療福祉チームと良い人間関係を築く	1 相手を尊重し、共感的態度で接する 2 対象や家族とコミュニケーションがとれる 3 看護チームの一員として他職種の人々と協力する

事前学習	実習オリエンテーションで説明 看護を考える実習　実習要項参照

【評価方法】
評価基準に基づき評価する（実習要項参照）100点

授業科目：	地域を知る実習 ★	講師名：	全教員 看護師	1　単位　45　時間　履修時期　1年生後期

【実習目的】

様々な対象（発達段階、健康状態）が地域で生活する様子と、地域の専門職がどのように生活者の健康を支えているかを学ぶ

実習目標	実習内容
1） 対象がどのような生活を送っているかを知る	1. 地域で生活する人の特徴を知る 2. どのような環境で生活しているかを知る 【実習内容】家庭訪問、施設利用者とのコミュニケーション
2） 地域での生活を支えている専門職および機関を知り、その役割を考える	1. 地域での生活を支えている専門職の役割を知る 2. 各機関の役割を知る 【実習内容】実習オリエンテーション、専門職と対象とのかかわりの見学、専門職へのインタビュー
3） 看護学生として必要な実習態度を身につける	1. 適切な身だしなみと言葉遣いである 2. 時間管理をする 3. 学習目標の達成に向けた主体的行動をとる 4. チームの一員として、報告・連絡・相談をする 5. 自己の健康管理をする

事前学習	実習オリエンテーションで説明 地域を知る実習要項参照

【評価方法】
評価基準に基づき評価する（実習要項参照） 100点

授業科目：	高齢者の生活を支える実習★	講師名：	全教員 看護師	2　単位　90　時間　履修時期　2年生後期

【実習目的】

老年期にある対象の特徴を理解し加齢と健康状態に応じた看護を実践するための基礎的能力を習得する

実習目標	実習内容
1.対象の健康障害の程度および援助の必要性を理解し実施する	(1)利用者の特性(健康障害の種類、程度)・日常生活の自立度について情報収集する (2)利用者の思いを言動から推察する (3)利用者の生活を観察し、その意味を考える (4)利用者のつよみに注目する
2. 家庭復帰に向けての援助方法を理解し、日常生活援助を実施する	(1)個別のケアプランを理解する (2)個に応じたリハビリテーションの実際 (3)生活リハビリテーションと残存機能の視点をもって日常生活援助の実際を理解し実施する (4)レクリエーションや楽しみが高齢者に及ぼす影響を考え実施する (5)援助内容が利用者に及ぼす影響を考える (6)家族支援の実際を理解する
3. 介護老人保健施設における看護の役割を理解し、老人保健・医療・福祉の協働について考えることができる	(1)施設の沿革及びサービスの内容 (2)施設における看護の役割を理解する (3)デイケアにおける看護の役割を理解する (4)老年看護の全体像を理解し、老人保健・医療・福祉がチームとしてどのように協働していけばよいか考え、看護の役割を認識する
4. 対象の生活史を理解し、価値観、自尊心を尊重した行動がとれる	(1)日常生活の自立に向け、利用者・家族の意思、生活習慣を尊重した看護を実施する (2)利用者、家族にとって最善の看護を実践するための看護倫理について考える (3)実習を通して自己の老年観や看護観について考え、老年看護を探求する

事前学習	実習オリエンテーションで説明 高齢者の生活を支える実習　実習要項参照

【評価方法】
評価基準に基づき評価する(実習要項参照)100点

授業科目：	高齢者の生活を支える実習★	講師名：	全教員 看護師	2　単位　90　時間　履修時期　3年生通期

【実習目的】

老年期にある対象の特徴を理解し加齢と健康状態に応じた看護を実践するための基礎的能力を習得する

実習目標	実習内容
1.対象の健康障害の程度および援助の必要性を理解し実施する	(1)利用者の特性(健康障害の種類、程度)・日常生活の自立度について情報収集する (2)利用者の思いを言動から推察する (3)利用者の生活を観察し、その意味を考える (4)利用者のつよみに注目する
2. 家庭復帰に向けての援助方法を理解し、日常生活援助を実施する	(1)個別のケアプランを理解する (2)個に応じたリハビリテーションの実際 (3)生活リハビリテーションと残存機能の視点をもって日常生活援助の実際を理解し実施する (4)レクリエーションや楽しみが高齢者に及ぼす影響を考え実施する (5)援助内容が利用者に及ぼす影響を考える (6)家族支援の実際を理解する
3. 介護老人保健施設における看護の役割を理解し、老人保健・医療・福祉の協働について考えることができる	(1)施設の沿革及びサービスの内容 (2)施設における看護の役割を理解する (3)デイケアにおける看護の役割を理解する (4)老年看護の全体像を理解し、老人保健・医療・福祉がチームとしてどのように協働していけばよいか考え、看護の役割を認識する
4. 対象の生活史を理解し、価値観、自尊心を尊重した行動がとれる	(1)日常生活の自立に向け、利用者・家族の意思、生活習慣を尊重した看護を実施する (2)利用者、家族にとって最善の看護を実践するための看護倫理について考える (3)実習を通して自己の老年観や看護観について考え、老年看護を探求する

事前学習	実習オリエンテーションで説明 高齢者の生活を支える実習　実習要項参照

【評価方法】
評価基準に基づき評価する(実習要項参照)100点

授業科目：地域での生活を支える実習★	講師名：塚本由利子 看護師　2　単位　90　時間　履修時期　3年生

【実習目的】

住み慣れた地域で、その人らしい生活を送れるように支援するための看護の基礎的知識および能力を養う

実習目標	実習内容
【地域包括支援センター実習　1日間】 1　地域包括支援センターの利用者および家族の特徴を理解する 2　地域包括支援センターの機能と役割を理解する 3　地域・在宅看護に必要な基礎的な知識を身につける 4　保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を理解する	1　利用者との関わり場面から学ぶ 1）生活の実際（自宅訪問） 2）面接場面の見学：相談内容の把握など 3）対象が抱える問題と支援の実際 2　事前学習および実習オリエンテーション 1）地域包括支援ｾﾝﾀｰの沿革 2）地域包括支援ｾﾝﾀｰの役割 (1)介護予防 (2)総合相談・支援 (3)権利擁護 (4)包括的，継続的マネジメント 3）構成メンバー 3　オリエンテーションおよび利用者との関わりから学ぶ 1）活用できる社会資源 2）在宅支援に関わる機関及び多職種連携の実際
【健康センター実習　1日間】 1　地域で生活する人々の健康に対するニーズを理解する 2　健康センターの機能と役割を理解する 3　地域・在宅看護に必要な基礎的な知識を身につける 4　保健医療福祉チームの一員としての地域・在宅看護の役割について考える	1　事業（健康相談，健康診査，健康教室，乳幼児健診など）の参加者との関わり 2　事前学習および実習オリエンテーション （健康センターの沿革，設置主体等） 3　健康センターの活動内容 1)成人・老人保健 (1)成人・老年期における疾病予防・慢性疾患の健康管理 (2)住民の利用状況と抱える問題 (3)地域内の成人・老年期の生活実態と健康意識、その援助方法 2）母子保健 （1）産婦の保健指導 （2）父親となるための準備教育 （3）地域で生活する乳幼児の健康管理 （4）家庭状況・家庭問題の実情に応じた育児指導 （5）母親の育児に対するﾆｰﾄﾞと発達段階に応じた保健指導
【訪問看護ステーション実習　5日間】 1　在宅で療養するあらゆる健康段階の人々やその家族の特徴を理解する 2　訪問看護ステーションの機能と役割を理解する	1　利用者との関わり場面から学ぶ 1)療養場面の見学（自宅訪問） 2)看護実践場面の見学：対象および家族が抱える看護問題と援助の実際 3)対象とのコミュニケーション 2　オリエンテーション 1）訪問看護ステーションの沿革 2）訪問看護ステーションの役割 3）構成メンバーとその役割1

3 地域・在宅看護に必要な基礎的な知識を身につける 1）療養者の身体・精神・社会的背景ならびに療養環境の情報を収集する 2）療養者と家族のニーズを明らかにする 3)療養者と家族のQOLを尊重した看護計画を立案する 4 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を理解する	3-1）報収集の視点 （1）対象の障碍の程度、健康ﾚﾍﾞﾙ、治療方針、生活歴、嗜好、信条など （2）家族構成、家族の役割、ｷｰﾊﾟｰｿﾝなど （3）療養環境（家屋の構造、設備など） （4）社会資源の活用・連携 ①人的支援：ﾍﾙﾊﾟｰ派遣、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動、各専門職の訪問など ②物理的支援：日常生活用具の給付など ③各制度の利用状況：介護保険、身体障害者福祉法、自立支援法 等 ④介護状況など 3-2)療養者と家族のニーズを明らかにする （1）身体的 (2)精神的 (3)社会的 (4)家族の健康状態 (5)家族の役割変化 3 -3） 療養者と家族のQOLを尊重した看護計画を立案する ＊目標志向型の思考で立案する（書式参照） 3 -4）可能な範囲で援助を実施する （1）日常生活援助 ・食事 排泄 活動 休息 清潔 衣生活 環境 （2）医療処置に関する援助 ・バイタルサイン測定 褥瘡処置 経管栄養 留置ｶﾃｰﾃﾙ 人工肛門 気管切開など （3）家族への援助 ①利用者・家族のQOLを尊重する姿勢、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ ②多職種と連携・協働する姿勢 ③個別性を理解した、看護の実践 4 -1)利用者・家族のQOLを尊4重する姿勢、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 4 -2）多職種と連携・協働する姿勢 4 -3）個別性を理解した、看護の実践
【市立病院地域医療室 2日間】 1 入院、退院支援を必要とする患者や家族の特徴を理解する 2 地域医療室の機能と役割を理解する 3 在宅看護に必要な基礎的な知識を身につける 4 保健医療福祉チームの一員としての訪問看護師の役割を理解する	
事前学習	実習オリエンテーションで説明 地域での生活を支える実習 要項参照
【評価方法】 評価基準に基づき評価する（実習要項参照） 100点	

授業科目： 回復期を支える実習Ⅰ★	講師名： 全教員 看護師	2 単位　90 時間 履修時期 2年生

【実習目的】
慢性病によって健康障碍をもつ対象の発達段階を踏まえ、セルフケアマネジメント能力を
高めるための看護実践能力を習得する。

実習目標	実習内容
1 慢性病を持ちながら生活している対象を身体的、心理的、社会的側面から理解できる。	1）実習の課題を理解し必要となる知識や技術などの学習準備 2）ライフスタイル、日常生活動作の自立度とその変化についての情報収集・整理 3）対象のレディネス及びセルフマネジメント能力の理解 4）セルフマネジメント能力を高めるための実現可能な目標・行動計画の立案
2 対話を通して、対象の培われてきた生活のありようとその意味を理解することができる。 3 対話の疾病の受容、疾病コントロールのための行動変容プロセスの支援について実践することができる。	1）健康障碍や治療・今後の生活への思いの傾聴 2）看護者としての適切なコミュニケーション 3）セルフマネジメント能力を高めるための援助の実践 4）エビデンスに基づいた、安全安楽な看護実践 5）患者の反応から目標と行動を評価し、行動を習慣化できるような計画の追加・修正
4 慢性病をもちながら生活している対象に必要な社会資源について考えることができる。 5 医療チームの一員として看護者の役割と多職種との連携の在り方を考え実践に繋げることができる。	1）継続看護の必要性の理解 2）対象が活用できる社会資源と連携の必要な部署や職種についての理解 3）退院に向けてのチーム支援 4）カンファレンスへの参加
6 専門職業人として看護を追求していく姿勢を養い、自己の看護観を形成する。	1）対象の意思・人格を尊重できる姿勢 2）医療チームの一員として協力的な姿勢 3）看護を追及する姿勢

事前学習	実習オリエンテーションで説明 回復期を支える実習Ⅰ　実習要項参照

【評価方法】
評価基準に基づき評価する（実習要項参照）100点

授業科目： 回復期を支える実習Ⅱ★	講師名： 真辺 恵子 看護師 高良 怜未 看護師	2 単位　90 時間　履修時期 3年生

【実習目的】
機能障碍および生活能力の障碍により継続的な生活の再構築を必要とする対象と家族の健康問題を理解し、必要な援助を行うための看護実践能力を習得する。

実習目標	実習内容
1 機能障害や生活能力に障害をもちながら生活している対象を身体的・心理的、社会的側面から理解できる。	1）実習の課題を理解し、必要となる知識や技術などの学習準備 2）対象とその家族を、身体的・精神的・社会的・霊的側面からの情報収集・整理する。 3）検査、治療過程が生活に及ぼす影響について理解する。 4）対象の苦痛を全人的に捉えている。 5）対象とその家族の置かれた状況を踏まえ、実現可能な目標と計画を立案している。
2 対話を通して、対象の培われてきた生活のありようとその意味を理解することができる。 3 対象の障碍の程度、障碍受容生活の再獲得の支援について実践することができる。	1）対象とその家族の想いを傾聴し、受容的な態度で接する。 2）対象に応じた症状マネジメントに向けた実践ができる。 3）対象の生活の再構築に向けた支援を考え実践できる。 4）対象のQOLを高めるための援助の実践ができる。 5）対象の価値観を尊重した関わりができる。 6）対象の生活を再構築する関わりができる。
4 障碍をもちながら生活している対象に必要な社会資源について考えることができる。	1）保健・医療・福祉チームとの調整の必要性の理解ができる。 2）継続看護の必要性の理解ができる。 3）福祉制度の活用や社会資源の活用について理解できる。
5 医療チームの一員としての看護者の役割と多職種との連携の在り方を考え、実践に繋げることができる。 6 専門職業人として看護を追求していく姿勢を養い、自己の看護観を形成する。	1）対象の意思・人格を尊重できる姿勢が持てる。 2）医療チームの一員として協力的な姿勢が持てる。 3）看護を追及する姿勢を持ち、看護観の構築ができる。

事前学習	実習オリエンテーションで説明 回復期を支える実習Ⅱ 実習要項参照

【評価方法】
評価基準に基づき評価する（実習要項参照）100点

授業科目： 急性期を支える実習★	講師名： 島田 亜子 看護師 江里口 晃世 看護師 岸本 夕貴 看護師	2 単位　90 時間　履修時期 3年生

【実習目的】

クリティカルケア領域の対象の特徴を理解し、生命の維持、健康回復への援助を理解する

実習目標	実習内容
1 急性期にある対象の特徴を理解し、看護を判断する視点で考察する	1）救急医療の現場の対象の特徴の理解 2）救急医療における看護の役割と臨床判断の理解 3）集中治療の現場の対象の特徴の理解 4）集中治療における看護の役割と臨床判断の理解
2 手術を受ける対象の特徴を理解し、必要な看護を実践から理解する	1）患者の病態と必要な手術療法の理解 2）麻酔および手術侵襲による生体反応と予測される問題の理解 3）手術前の必要な看護の実践と理解 4）手術後の状態観察と異常の早期発見の実践と理解 5）手術後の合併症予防に対する判断の理解 6）身体的苦痛・不快感への緩和や安楽への援助の実践と理解 7）周手術期における対象の心理状態の理解
3 保健・医療チームの一員としての役割を理解する	1）急性期の現場における看護の調整的役割の理解 2）継続看護の必要性の理解
4 専門職業人として看護を追求していく姿勢を養う	1）自ら疑問を持ち、課題に向けて主体的に学ぶ姿勢 2）チームの一員として協調的な姿勢（報連相含む） 3） 倫理的な判断と行動

事前学習	実習オリエンテーションで説明 急性期を支える実習 実習要項参照

【評価方法】
評価基準に基づき評価する（実習要項参照）100点

授業科目：こどもの健康を支える実習★	講師名：　島田亜子 看護師 堀内吉美 看護師	2 単位　90 時間　履修時期 3年生

【実習目的】

小児期にある対象の特徴を理解し、こどもとその家族に対し、健康段階応じた看護を実践するための基礎的能力を養い、自己のこども観を養い、小児看護に対する関心を深める。

実習目標	実習内容
病棟・外来実習	
Ⅰ小児病棟実習 1　こどもを成長・発達の特徴及び家族関係を含む環境から総合的に理解する	1 アセスメントツールに基づいた必要な情報の収集 2 情報の解釈・分析・統合として関連図を用いて問題抽出過程と各問題間の関係を思考 3 受け持ち患児の養護と生活の援助について看護計画を立案し成長・発達段階、健康段階に応じた援助の実施 1)環境調整　病棟の構造・日課・規則・事故の予防 2)食事 3)排泄4)睡眠5)清潔・衣生活6)移動・活動 7)遊び・学習 8)症状の観察9)保健指導（プレパレーション）
2　こどもとその家族に対し、成長・発達と健康段階に応じた日常生活の援助の必要性を理解し、実践する	1 受け持ち患児の家族の問題への対応 1)家族の不安 2)家族の疲労・役割の変化 3)保健指導 2 日々実施した援助の評価と考察
3　こどもと家族の関係形成の重要性を理解する	1 受け持ち患児とのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 1)こどもとの言語的・非言語的コニュニケーション 2)こどもの反応（ことば・表情・態度）の観察 3)こども同士のやり取りの観察 4)遊びへの参加 5)自己の感情の変化の認識 6)自分に対するこどもの反応の変化を把握 7)家族の反応の観察 8)看護師の対応の観察
4　小児看護を実践するための倫理的な態度を身につける	1 観察・報告の重要性 2 こどもに対して自己の及ぼす影響
5　保健・医療・福祉チームの一員としての責任を自覚し、看護が果たすべき役割について理解する	1 対象の児の入院に伴う児および家族の不安や心配事を外来チームと連携をとり、調整がスムーズに進むために必要な情報を得ながら、解決に向かえるように支援する方法を考える
Ⅱ小児外来実習 1 通院治療を受けているこどもとその家族の健康課題を理解する	1）外来を訪れる子どもの症状、疾患の種類・発病からの経過 2）診察室の特徴（緊張の緩和と感染予防など） 3）子どもと家族への配慮　治療・処置の説明と同意 4）子どもの成長・発達への影響 5）家庭療養における必要な援助と保健指導 6）継続看護の必要性の理解
2　診察時の看護について理解する	1 診察室の特徴 1)安全な環境 2)感染症対策 3)緊張の緩和 2 こどもの検査治療への意思決定を支える援助 3 診察中のこどもの安全・安楽を保つ援助 4 家族への説明
3　こどもと家族のセルフケア能力を高めるための指導について理解する	1 こどもに対する指導の実際 2 家族に対する指導の実際
4　小児科外来看護の役割と重要性、また各専門職との連携を理解する	1 地域における小児科医療・看護の役割 2 他の医療機関との連携 3 社会資源の種類と活用方法を理解する （特定疾患・乳児医療・母子家庭の医療扶助など）

子ども発達支援センター	
1　健康課題を持ちながら地域で生活するこどもと家族の生活状況を理解する	1 受け持ちのこどもの観察 2 こどもと家族の生活を知る
2　療育の現場での実践を通して、こどもの成長・発達を促す援助について理解する	1 保育・療育場面を通したこどもの成長発達を促す援助 1）保育士の関わりの観察 2）保育・療育場面への参加 3）母親の関わりの観察 4）療育環境と安全への配慮
3　こどもを個人として尊重して関わることができる	1 保育・療育場面を通したこどもとの関わり 2 こどもを個人として尊重して関わることの意味を考察
4　保健・医療・福祉チームの連携の中での看護の役割を理解する	1 オリエンテーション 福祉制度、施設の概要・沿革、 療育方針、今後の課題 2 家族との連携 3 発達障碍をもつこどもとその家族の療育生活における問題についての理解と 必要な支援のあり方(ｻﾎﾟｰﾄｼｽﾃﾑ) 4 地域社会で健康課題を持ちながら 生活しているこどもの療育を通して 保健・医療・福祉の現状についての考察
5 学習目標に向けた主体的な行動をとることができる	1 事前・事後学習の取り組み 2 主体的な行動
学校保健室見学実習	
1 学童期・思春期の成長・発達の特徴及び個別性 を理解する 2 学童期・思春期の健康課題の特徴を理解する 3 学童期・思春期にあるこどもと関わることができ る 4 小・中学校における健康教育と健康管理の実際を理解する 5 地域における看護の役割を考えることができる	1 オリエンテーション 地域の特色、各学校の概要など 2 講話 1)こどもの健全な心身の成長発達を促すための各学校における方針 2)健康的側面からみたこどもたちの特徴など 3 健康管理 1)定期健康診断と事後の処理 2)健康相談 3)健康状態の把握 4)健康問題のあるこどもへの対応の実際 ・慢性疾患、発達遅延など 5)その他 ・環境の整備、事故防止など 4 健康教育 1)保健学習 ・性教育、衛生教育など 2)健康教育の面からみた生活指導 ・集団・個別指導―疾病の予防 5 参加の場面 1)授業参観、ﾎｰﾑﾙｰﾑ見学 2)給食場面への参加、障碍児ｸﾗｽの授業参観 3)保健室での対応場面
事前学習	実習オリエンテーションで説明 子どもの健康を支える実習　実習要項参照
授業時間	病棟・外来実習　5日間 発達支援センター実習　3日間 学校保健室実習　3日間（実践外時間1日を含む） 実習時間：8:30～15:30（1時間休憩）
【評価方法】 評価基準に基づき評価する。（実習要項参照）100点	

授業科目：母性の健康を支える実習★	講師名：大本奈美 助産師 新居麻美子 助産師 杉山衣久美 助産師	2 単位　90 時間	履修時期	3年生

【実習目的】

妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を理解し、対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。

実習目標	実習内容
Ⅰ病棟実習 【妊婦の看護】 1 妊婦の妊娠経過・日常生活行動・妊娠に伴う心理的変化、家族を含む環境から生活を営む統合された存在として理解する。	1） 妊娠経過、ハイリスク因子 （1）妊婦の健康状態、ハイリスク因子　（2）妊娠経過 2） 妊婦の日常生活行動 （1）栄養と食事　（2）排泄　（3）活動、休息・睡眠　（4）清潔、整容 （5）妊娠による妊婦の日常生活の変化　（6）妊婦の就労 3） 妊婦の心理状態 （1）今回の妊娠の受け止め　（2）妊娠に伴う心理的変化 4） 妊娠経過が順調かどうか （1）妊婦の健康状態　（2）妊娠に伴う全身の変化　（3）検査所見 5） 胎児の発育が順調か （1）胎児の発育状態、健康状態の評価　（2）検査所見 6） 家族の受け入れ状況、社会的支援 （1）家族の理解、家族のサポートの有無　（2）地縁、交友関係
2 妊婦とその家族に対し、正常に経過するための援助について理解する。	1）妊娠期の健康課題の援助 （1） 妊娠経過に応じた個別指導 （2） 妊娠経過に応じた集団指導
【産婦の看護】 1 産婦の分娩経過・日常生活行動・分娩に伴う心理的変化、家族を含む環境から生活を営む統合された存在として理解する。	1） 分娩経過、ハイリスク因子 （1）産婦の健康状態、ハイリスク因子 （2）分娩開始徴候 （3）分娩経過 2） 産婦の日常生活行動 （1）食事、水分摂取状況　（2）排泄　（3）休息と睡眠（疲労）（4）清潔 3） 産婦の心理状態 （1）不安、恐怖 4） 夫や家族の支援 （1）夫婦間の信頼関係（2）夫のこどもに対する受け止め（3）家族の支援
2 分娩経過を正常に促すための援助ができる。	1） 産婦の日常生活の調整 2） 産痛緩和 3） セルフケア
3 生命の尊厳や自己の母性観（父性観）を深める。	1） 産婦（夫）との関わりを通して母性（父性）に対する考え 2） 産婦（夫）との関わりを通して両親に対する感謝の気持ち 3） 分娩見学を通して生命の尊厳
【褥婦の看護】 1 褥婦の産褥経過・日常生活行動・育児に伴う心理的変化、家族を含む環境から生活を営む統合された存在として理解する。	1） 産褥経過、ハイリスク因子 （1）褥婦の健康状態、ハイリスク因子 （2）産褥経過　・退行性変化　・進行性変化 2） 褥婦の日常生活行動 （1）食事（2）排泄（3）活動（4）休息と睡眠（5）清潔（6）乳房の手当 3） 褥婦の心理状態 （1）分娩、育児に対する母親の認識（2）褥経過に伴う心理的変化（3）不安 4） 褥婦の育児能力 （1）育児経験　（2）育児手技（3）児の接し方 5） 褥婦の家族・社会環境 （1）夫のこどもに対する受け止め　（2）夫、家族、社会的支援

実習目標	実習内容
2 産褥経過および育児が順調に進むための援助をする。	1） 出産後の身体回復を促進するための援助 （1）休息・睡眠　（2）栄養 2） 子宮復古を促進するための援助 （1）子宮底部の輪状マッサージ （2）排泄コントロール （3）活動　（4）栄養 3） 母乳栄養を促進するための援助 （1） 母親の母乳栄養に対する考えを尊重した関わり （2） 母乳栄養の利点　（3） 乳房ケア （4） 児の抱き方、乳頭の含ませ方 （5） 乳頭の外し方　（6） 排気の仕方
3 母子に適応される法的保護・諸制度・社会資源について理解する。	1）出生届　2）母子健康手帳　3）産後（出生後）の健診 4）子育て支援　5）訪問看護
4 自己の母性観・父性観を深めることができる。	1） 母子（父子）の関係
【新生児の看護】 1 新生児の特徴を理解し、観察する。	1） 新生児の観察 (1)呼吸　(2)心拍　(3)体温　(4)排泄　(5)栄養 (6)黄疸　(7)原始反射 (8)成熟徴候 2） 検査所見
2 新生児の日常生活環境を整えるための日常生活の援助をする。	1） 環境・清潔・栄養・排泄についての援助 2） 感染予防・安全についての援助
Ⅱ ママズケア(乳房ケア・ベビーマッサージ>見学実習	
1 継続看護の必要性について理解する。	1） 地域における子育て支援の位置づけ (1)乳房ケア　(2)ベビーマッサージ 2） 地域における看護者の役割 3） 継続看護の必要性
事前学習	実習オリエンテーションで資料配布し、説明。 母性の健康を支える実習 実習要項参照
【評価方法】 評価基準に基づき評価する。 病棟実習(90点)+ママズケア(10点)＝100点	

授業科目：こころの健康を支える実習★	講師名： 加納 里美 看護師	2 単位　90 時間　履修時期 3年生

【実習目的】

精神に障碍を持つ対象の特徴を理解し、対象の状況に応じた看護が実践できる能力を養う

実習目標	実習内容
1 精神に障碍のある対象の特徴が理解できる	1) 精神障碍のある対象の特徴的な症状 2) 行われている治療の内容 ・薬物療法・精神療法・認知行動療法（CBT）・生活療法 3) 対象の生活歴（生育歴）：発達段階、発症の時期、入院と経過 4) 対象の反応の観察（表情、行動、言動など） 5) 生活の場としての環境の理解（入院形態など）
2 精神の障碍によって生じる日常生活の問題を把握し、自律・自立のための援助ができる	1) 日常生活行動の観察と問題の把握 (1)食事、排泄、睡眠、清潔、衣生活、私物管理、環境整備 (2)金銭管理、時間管理（院内・院外外出） (3)対人関係（他患者、医療関係者） 2) 日常生活自立のための援助（生活指導） 3) 対象の安全を守るための援助 （1）病棟の構造上の特徴と鍵の取り扱い(開放、療養、閉鎖、隔離室) （2）離院、自殺、自傷・他傷行為、火災、危険物の取り扱い （3）転倒・転落、拘束、誤嚥 4) 治療への援助 （1）薬物療法の副作用の観察と服薬管理 （2）作業療法やﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ療法への参加
3 対象との関わりでプロセスレコードを通して効果的なコミュニケーション技術を身につける	1) 対象の反応（言動・行動）の意味を考える （1）対象を一人の人間として関心をもつ （2）非言語的ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ技術の活用 （3）時間・距離・ﾀｲﾐﾝｸﾞ の取り方 2) 受容的態度で接する （1）対象の意思、人格の尊重 （2）対象 のありのままを受容する 3) 効果的ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ技術の活用
4 社会復帰に必要な資源を活用するための調整的な役割が理解できる	1) 継続看護と関連部門・職種との連携の必要性の理解 2) 社会資源の種類と利用方法の理解 （1）住む場所:施設入所支援、グループホーム （2）活動する場所:ﾃﾞｲｹｱ、小規模作業所、就労支援事業所（A型・B型） （3）生活支援・相談:訪問看護、地域活動支援ｾﾝﾀｰ、ﾎｰﾑﾍﾙﾌﾟ （4）医療:外来通院、健康診断、作業療法
5 こころの健康を支える看護を実践するための倫理的な態度を身につける。	1）こころの健康を支えることの意味を考え、人格を尊重する 2）看護の対象に関心を持ち続け、責任ある態度をとる

事前学習	実習オリエンテーションで説明 こころの健康を支える実習要項参照

【評価方法】
評価基準に基づき評価する(実習要項参照) 100点

授業科目：　看護の統合実習★	講師名：　全教員 看護師	2 単位　　90 時間　履修時期 3年生後期

【実習目的】

チーム医療および他職種との協働のなかで、看護師の役割を理解し、看護の対象その家族に対して既習の知識や技術を統合し看護を実践する能力を養う。

実習目標	実習内容
1.看護管理の実際について学び、保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能を理解する。	1)看護管理の視点をもち、看護師長からの話を聞く。 (1)病院組織における看護管理について ・看護組織としての機能　・看護理念、看護方式（固定チームナーシング・PNS） (2)病棟管理者の役割と業務について ・病棟目標管理　・病床管理　・危機管理 ・スタッフ・看護学生の教育指導　・他部門との連絡調整 ・職員の配置　・勤務時間管理の実際　・職員の健康管理 2)リーダーおよびメンバーの役割を理解することができる。 (1)リーダーおよびメンバーの役割と業務の実際 (2)医師への報告、連絡調整 (3)看護チーム内の連絡調整 (4)病院内外の部門との連絡調整
2. 優先順位と時間管理を考慮し、複数の対象の看護を実践する。	1)2名の対象者を受け持ち、必要な情報を収集し、優先順位を考慮した行動計画を立案する。 2)優先順位の変更が生じた場合、適宜報告・連絡・相談して、行動計画の再調整 を行う。 3)対象者の情報収集と並行して援助を実践する。 (1)病棟の看護計画に沿ってその日優先順位の高い援助の実践 (2)患者の状態変化や治療方針の変更を確認 (3)援助実施の良否・優先度の判断 4)関連図を用いて、対象者の全体像を把握する。 5)複数の対象者に対し、安全・倫理的配慮に基づいた看護を実践する。 （リスクマネジメントの方法・安全な薬剤の管理・感染防止・転倒転落予防・褥瘡
3. 習得すべき技術項目が、卒業時の到達レベルに到達することを目指す。	1)到達レベルに達していない技術項目が経験でき、かつレベルに到達するよう主体的に行動する。 2)看護技術を対象者の状態にあわせて、指導のもと適切に援助する。
4. 夜間実習を通し、対象の理解を深めるとともに看護の実際を学ぶ。	1)夜間の看護師の役割と業務内容について理解する。 2)夜間の対象者の状況を理解する。 3)夜間の患者の安全確保の実際 4)夜間の病棟管理体制の理解
5. 看護専門職者としての責務を果たすための役割や課題を明確にする。	1) 保健医療福祉チームにおいて他職種と協働し、生活者の視点で捉えた対象の情報提供や共有を行う必要性を理解する。 2)看護職者として責務を果たすための課題と取り組みを明らかにする。

事前学習	実習オリエンテーションで説明 統合実習　実習要項参照
授業計画	実習機関：3年生後期の12日間 実習時間：　8:30～15:30（1時間休憩）　8時間／日

【評価方法】

評価表に基づき評価する。(実習要項参照)　100点